

地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館 平成28年度計画

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 佐賀県医療センター好生館が担うべき医療の提供及び医療水準の向上

佐賀県医療センター好生館は、県民のために、佐賀県における中核的医療機関として、地域の医療機関との連携・役割分担のもと、県民に必要とされる良質で高度な医療を着実に提供し続けるとともに、スタッフの確保・育成を図り、医療をはじめとするサービスの質の向上を目指す。

(1) 好生館が担うべき医療の提供

① 充実した救急医療の提供

- ・ 24時間365日、救急車を受け入れる。
- ・ ドクターカーを有効に運用する。
- ・ ドクターヘリについては、基地病院（佐賀大学病院）と連携し、有効に運用する。
- ・ 交通事故や自然災害などによる外傷患者に対する治療に取り組む外傷センターを有効に運用する。
- ・ 脳卒中センターの機能を有効に運用する。
- ・ 血管造影室、ハイブリッド手術室を活用し、ハートセンターを有効に運用する。
- ・ 手術用ロボットの運用を開始する。
- ・ ICU2機能を維持する。
- ・ 救命救急センターの受入体制を維持する。

| 区分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|---------|---------|---------|
| 受入救急車台数 | 2,880台 | 2,850台 |
| 救急患者数 | 18,000人 | 18,200人 |

② 高度・専門医療の提供

- ・ 本県における中核的医療機関として、循環器系疾患に対する医療、がんに対する医療、小児・周産期医療、感染症医療など、佐賀県医療センター好生館に求められる高度・専門医療を提供する。

i 循環器系疾患に対する医療

- * ハートセンター、脳卒中センターでのチーム医療を推進する。
- * 心臓カテーテル治療件数を維持する。
- * 大血管ステント治療を継続する。
- * リハビリテーション専門医の指導のもと、早期急性期リハビリテーションを充実する。
- * 脳血管内治療医によるインターベンションを推進する。
- * 脳卒中連携パスについては、ピカピカリンクを利用した電子パスの運用を開始する。
- * 脳梗塞患者を引き続き積極的に受け入れる。

ii がんに対する医療

- * 外来化学療法室の運用を充実させる。
- * がん地域連携パスを運用する。
(肺、肝臓、胃、大腸、食道、乳腺、前立腺)
- * がん治療において九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)との連携を継続する。
- * 日本小児血液・がん専門医研修認定施設の機能を維持する。
- * がんリハビリテーションを継続して実施する。

iii 小児・周産期医療

- * 地域における小児医療の拠点として、肺炎、気管支炎等の下気道感染症やアレルギー疾患等、小児に特徴的な疾患及び小児がんなど高度・専門医療に取り組むとともに、引き続き小児救急医療を提供する。
- * NICUの有効利用を図る。
- * 小児外科領域において、周辺医療機関のサポートを継続する。
- * 小児病棟をより有効に運用する。

iv 感染症医療

- * 感染症医療については、県、福岡検疫所(佐賀空港出張所)等と連携をはかり柔軟に対応する。
- * エボラ出血熱等の第1類感染症の国内発生に備えた患者移送、検体移送、入院医療、院内感染対策等の体制を維持する。

v 外傷や災害時の医療

- * 外傷センターを有効に運用する。

| 区 分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|------------|--------|--------|
| 心臓カテーテル治療数 | 290件 | 290件 |
| アブレーション件数 | 245件 | 245件 |
| 大血管ステント治療数 | 14件 | 14件 |
| 造血幹細胞移植数 | 2件 | 2件 |
| 外来化学療法患者数 | 3,300人 | 3,300人 |
| 脳卒中治療患者数 | 265人 | 270人 |
| 小児外科手術 | 300件 | 300件 |
| 分娩数 | 240件 | 240件 |

③ 高度医療機器の計画的な整備・更新

- ・ 高度医療機器の更新・整備を計画的に行うとともに、適正な運用を継続し、さらなる高度・専門医療を提供する。
- ・ 医療機器購入にあたっては、ベンチマーク等を活用し適正価格での購入を図り、費用削減に努める。

(2) 医療スタッフの確保・育成

① 優秀なスタッフの確保・専門性の向上

- ・ 診療能力の向上及び診療技術の習得に関する指導体制の整備や、大学等関係機関との連携により、優秀な医師の確保を図る。
- ・ 新専門医制度への移行に備えて、適切に指導医を確保する。
- ・ 優秀な看護師を確保するために、看護学生への奨学金制度を継続する。
- ・ 専門資格取得のための研修制度や助成制度等により、専門医、専門看護師、認定看護師及び領域別専門資格の取得を推進する。
- ・ 専門知識・技能向上のため、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の研修等を充実させ、資格の取得を推進する。

専門領域資格

| 区 分 | 27年度 見込 | 28年度 目標 | 増加数 |
|---------------|------------|------------|-----|
| 認定看護師 | 14名 | 16名 | 2名 |
| 専門/認定 薬剤師 | 9名 | 9名 | 0名 |
| 専門放射線技師 資格 | 13名 | 15名 | 2名 |
| 認定検査技師 | 29名 | 30名 | 1名 |
| 専門療法士資格 | 11名 | 13名 | 2名 |
| 管理栄養士関連 資格 | 6名 | 8名 | 2名 |
| 認定 ME 資格 | 6名 | 7名 | 1名 |

延べ新規資格取得者数

② 医療スタッフの育成

- ・ 総合教育研修センターの活用による人材育成をさらに充実させる。
- ・ 救急スタッフの育成を図るため、医師、臨床研修医、医学生、看護師、看護学生、救急救命士等に対する救急医療の教育に取り組む。
- ・ 教育研修プログラムの充実により教育研修体制を強化するとともに、臨床研修医等を受入

れる。

- ・ 佐賀大学等との連携を一層強化し、病院の活性化及び病院職員、医療従事者としての専門性を高めるために人事交流を実施する。
- ・ 海外提携病院との交流を継続する。
- ・ 佐賀県立総合看護学院等の行う看護師教育、実習に対する協力を行う。また、実習指導者の育成を強化する。
- ・ 医療従事者養成機関から医師、薬剤師、看護師などを目指す実習生を受け入れる。

| 区 分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|---------|--------|--------|
| B L S | 65回 | 24回 |
| A C L S | 12回 | 12回 |
| 臨床研修医数 | 31人 | 27人 |
| 薬剤師実習生 | 8人 | 8人 |
| 看護師実習生 | 276人 | 276人 |

(3) 信頼される医療の提供

① 科学的根拠に基づく医療

- ・ 患者や家族からの信頼を得て適切な医療を提供するため、E B M（科学的根拠に基づく医療）及びV B M（価値に基づく医療）を推進する。
- ・ ホームページに診療実績（クリニカル・インディケータ等）を掲載する。
- ・ がん関連のデータを公表する。

※E B M=Evidence Based Medicine

※V B M=Value Based Medicine

② 患者中心の医療

- ・ 円滑な入退院管理を遂行する。
- ・ 検査及び治療の選択における患者の自己決定権を尊重し、インフォームドコンセントを徹底する。
- ・ 診療報酬改訂に対応したクリニカルパス（電子カルテ上で運用）に改良し、その運用を推進する。
- ・ 入退院、医療費・医療扶助、がんなどに関する相談に適切に対応する。とともに、性暴力被害者の相談に対して、性暴力救援センター・さが（さが mirai）と協力して適切に対応する。
- ・ 認定看護師による[ストマ外来]を運用を継続する。
- ・ 新たに[がん看護外来]の運用を開始する。
- ・ 薬剤師による服薬指導の充実を図る。
- ・ 管理栄養士による栄養指導の充実を図る。
- ・ リハビリテーション技士による早期リハビリテーションの充実を図る。

- ・ セカンドオピニオン外来を継続する。

| 区 分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|------------|--------|--------|
| クリニカルパス数 | 265種類 | 240種類 |
| クリニカルパス適用率 | 60% | 60% |

*類似パスの統合・整理のためパス目標数は減少

③ 地域の医療機関との連携強化

- ・ 佐賀県の「地域医療構想」に協力する。
- ・ 地域の医療機関に対し好生館の病院機能（スタッフ、設備等）を紹介するとともに、相互連携、機能分担に積極的に取り組む。
- ・ 地域連携強化のため医療機関を訪問し紹介・逆紹介の増加を図る。
- ・ 連携施設と共同で空床管理システムを運用する。

| 区 分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|------|--------|--------|
| 紹介率 | 81% | 81% |
| 逆紹介率 | 105% | 105% |

- ・ 肝炎コーディネーター、糖尿病コーディネーター及びがん地域連携パス・コーディネーターの活動を継続すると共に、引続き、同電子パスの構築・導入を検討する。
- ・ 地域の医療機関との間で、ICT（情報通信技術）を利用し、医療情報の共有化を図る。
- ・ がん治療において九州国際重粒子線がん治療センター（サガハイマツ）との連携を図る。（再掲）
- ・ 在宅医療に関しては、県と連携をしながら対応する。
- ・ 地域連携クリニカルパスの種類：9種類
既に運用：脳卒中、大腿骨頸部骨折、胃がん、大腸がん、肺がん、肝臓がん、食道がん、乳がん、前立腺がん
- ・ 地域の医療関係者及び県民に広く好生館の診療内容などを知ってもらうための広報誌（改訂版）を作成し配布する。
広報誌：「好生館だより」「好生館年報」「診療のご案内」「救命救急センター」「外傷センター」「脳卒中センター」「循心レター」「好整（整形外科）」「Surgery（消化器外科）」など

（4）災害時等の協力

- ・ 基幹災害拠点病院として、災害時に必要な診療機能を発揮できる体制を維持する。
- ・ 災害時等において患者が集中する医療機関や救護所からの要請を受けて医療従事者の応援派遣等の協力を行う。
- ・ 災害時に災害派遣医療チーム(DMAT)を現地に派遣して救護活動を行う。
- ・ 災害医療に従事する職員の養成を行う。

- ・ 被ばく医療に携わる人材の育成、研修受講の推進、原子力災害訓練等に積極的に参加すると共に機能整備の強化に取り組む。
- ・ 原子力災害発生時においては、二次被ばく医療機関として受け入れ可能な被ばく患者に、必要な医療を提供できるよう県と連携をとりながら体制を確保する。
- ・ 新型インフルエンザ等の発生時には、県と連携し対応する。

2 患者・県民サービスの一層の向上

(1) 患者の利便性向上

- ・ 定期的な患者満足度調査等により患者ニーズを的確に把握し、利便性の向上を図る。
- ・ 診療予約の推進等により待ち時間の短縮等を図ることを通して患者満足度の向上に努める。
- ・ ICTの活用により外来患者待ち時間を継続的に把握し、待ち時間の短縮を図る。
- ・ 外来患者に対する満足度調査を実施する。

| 区 分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|---------------|--------|--------|
| 総合満足度 (入院) | 97% | 97% |

(5段階評価を100%に換算)

(2) 職員の接遇向上

- ・ 全職員を対象とした接遇研修を実施するとともに、部門ごとに接遇目標を設定し実行する。
- ・ 接遇指導者による院内ラウンドを強化する。

| 区 分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|-----------|--------|--------|
| 全職員対象接遇研修 | 3回 | 3回 |

(3) ボランティアとの協働

- ・ ボランティアを積極的に受け入れ、職員と連携をとりながら患者サービスの向上に取り組む。
- ・ ボランティアの活動が円滑に行われるよう支援する。
- ・ 病院ホームページの「ボランティアの広場」の運用を継続する。

3 社会的責任の遂行

(1) 環境への負荷の小さい病院運営

- ・ 廃棄物の分別化を一層推進し、可能な限りリサイクルに努める。
- ・ 新エネルギーやクリーンエネルギーを適切に組み合わせたエネルギーシステムを活用し、省エネルギー、省CO₂に取り組む。

(2) 社会的信頼の向上

- ・ 個人情報保護関係法令の遵守について、全職員が認識を高め、実践できるよう定期的に職員研修を実施する。

【目標】

セキュリティポリシー研修
全職員 年1回以上受講

(3) 医療・健康の情報発信

- ・ 病院の持つ専門的医療情報を基に、県民を対象にした講座の開催や、ホームページ等により、疾病等や健康に関する医療情報の発信及び普及に取り組む。
- ・ 佐賀県個人情報保護条例及び診療情報の提供に関する指針等に基づき、患者のプライバシーの保護を図るとともに、患者及びその家族に対し、カルテ（診療録）・レセプト（診療報酬明細書）等の情報開示を適切に行う。
- ・ 「佐賀県の食と健康」のホームページサイトを開設し、食と健康の情報を発信する。

【目標】

- ・ 県民公開講座の開催：2回/年
- ・ 広報誌の発刊（再掲）
「好生館だより」「好生館年報」「診療のご案内」「救命救急センター」「外傷センター」「脳卒中センター」「Surgery」「循心レター」「好整（整形外科）」

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務の改善・効率化

職員一人ひとりが経営に参画するという意識を持ち、医師、看護師、メディカルスタッフ、事務職等各職種が一層緊密に連携を図って効率的な病院運営に当たり、患者にとってよりよい結果をもたらすとともに、県民負担の軽減につながる事となるよう努めていく。

(1) 効率的な業務運営

- ・ 地域医療構想等の外部環境変化に対応できる診療体制を構築する。
- ・ ISO15189（臨床検査室の品質と能力に関する国際規格）認定後の定例審査（毎年）を受ける。

(2) 事務部門の専門性向上

- ・ 職員研修の充実等により専門的知識の習得を促進する。
- ・ 事務部職員のプロパー化を進める。
- ・ 医療環境の変化により柔軟に対応できる事務組織に再編する。
- ・ 学会等へ事務職員の発表及び参加を促進する。
- ・ 「管理会計システム」等を活用し、さらなる病院経営の効率化に努める。

(3) 人事評価制度の構築

- ・ 職員の業績や能力を適正に評価する人事評価制度を診療部長に適用する。
- ・ 一般職員対象の人事評価を試行する。

2 収益の確保と費用の節減

(1) 収益の確保

- ・ 診療報酬の請求漏れ及び減点の防止に取り組む。
- ・ 平成28年度診療報酬改訂に適切に対応し施設基準を取得する。
- ・ 未収金の発生を未然に防止する対策を強化するとともに、早期の回収に取り組む。
- ・ DPCで設定されている平均在院日数を目標に、効果的な病床管理を徹底し、診療密度の向上を図る。
- ・ クリニカルパスに経営的視点を加味した見直しに着手する。

| 区 分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|--------|--------|--------|
| 平均在院日数 | 10.6日 | 10.4日 |
| 病床稼働率 | 92% | 92% |

※DPC=Diagnosis Procedure Combination

(2) 費用の節減

- ・ 費用節減のための具体策を検討し、人件費、薬剤費、材料費等の医業収益に占める目標値を年度ごとに設定し実行する。
- ・ 薬事委員会において、薬剤ごとに供給量、安全性、有効性等についての確認を行い、後発医薬品の導入を推進する。
- ・ 検査試薬を含め材料費等の節減を図る。
- ・ 診療材料については、共同購買機構に加入する。
- ・ 適切な人員配置等により業務分担を進めることにより時間外勤務を縮減し、職員の業務量を軽減する。
- ・ 職員全員の経営意識の向上を図るため、職員間での経営情報の共有を進めるとともに、職員のコストに対する意識向上、各職場でのコストダウンに取り組む。

| 区 分 | 27年度見込 | 28年度目標 |
|------------|--------|--------|
| 人件費率 | 50% | 50% |
| 材料費率 | 24% | 23% |
| (薬剤費率) | (12%) | (11%) |
| ジェネリック薬 注) | 83% | 75% |

注) ジェネリック薬：数量ベースの構成比

H28年度目標は、DPC後発品使用率の計算法

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画、資金計画

「第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進め、安定的な経営に取り組む。

- ・ 減価償却費、償還額の増加に対応できる計画的・効率的な病院経営により早期の経常収支の改善に努める。

| | | |
|--------|---|--------|
| 1 予算 | } | (別紙参照) |
| 2 収支計画 | | |
| 3 資金計画 | | |

第8 その他地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館の業務運営並びに財務及び会計に関する規則で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する事項

- ・ 職員駐車場不足を解消するための新駐車場の整備等の施設整備に向け検討を進める。
- ・ 診療に必要となる医療機器の整備を行う。

2 人事に関する事項

- ・ 仕事と家庭の調和に配慮した多様な雇用形態や勤務時間の設定を行うとともに、時間外勤務の縮減など労働時間の適正な管理を進める。
- ・ 出産・育児などで職場を離れた医療従事者の職場復帰訓練計画を作成し、実施する。
- ・ 医療勤務環境改善支援センターの活動に協力する。

(別紙)

【H28年度計画】

予算(平成28年度)

(千円)

| 区分 | 金額 |
|----------|------------|
| 収入 | 17,049,355 |
| 営業収益 | 15,582,001 |
| 医業収益 | 14,329,100 |
| 運営費負担金収益 | 1,092,501 |
| 補助金等収益 | 52,000 |
| 受託収入 | 108,400 |
| 営業外収益 | 276,198 |
| 運営費負担金収益 | 154,197 |
| その他営業外収益 | 122,001 |
| 資本収入 | 1,191,156 |
| 運営費負担金収益 | 841,156 |
| 長期借入金 | 350,000 |
| その他資本収入 | 0 |
| その他の収入 | 0 |
| 支出 | 17,065,879 |
| 営業費用 | 14,320,303 |
| 医業費用 | 13,651,121 |
| 給与費 | 7,340,398 |
| 材料費 | 3,540,900 |
| 研究研修費 | 117,662 |
| 経費 | 2,652,161 |
| 一般管理費 | 669,182 |
| 営業外費用 | 212,578 |
| 臨時損失 | 20,000 |
| 資本支出 | 2,512,998 |
| 建設改良費 | 1,028,771 |
| 長期借入金償還金 | 1,462,627 |
| 貸付金 | 21,600 |

(注) 予算：県会計の収支予算に該当(収益的収支、資本的収支を合わせて発生主義に基づき作成)

収支計画(平成28年度)

(千円)

| 区分 | 金額 |
|------------------|------------|
| 収益の部 | 16,161,659 |
| 営業収益 | 15,885,461 |
| 医業収益 | 14,329,100 |
| 運営費負担金収益 | 1,092,501 |
| 資産見返補助金等戻入 | 303,460 |
| 補助金等収益 | 52,000 |
| 受託収入 | 108,400 |
| 営業外収益 | 276,198 |
| 運営費負担金収益 | 154,197 |
| その他営業外収益 | 122,001 |
| 臨時収益 | 0 |
| 費用の部 | 16,164,914 |
| 営業費用 | 15,932,336 |
| 医業費用 | 15,071,407 |
| 給与費 | 7,340,398 |
| 材料費 | 3,540,900 |
| 減価償却費 | 1,718,338 |
| 研究研修費 | 117,662 |
| 経費 | 2,354,109 |
| 一般管理費 | 799,017 |
| 資産に係る控除対象外消費税等償却 | 61,912 |
| 営業外費用 | 212,578 |
| 臨時損失 | 20,000 |
| 純利益(純損失) | △ 3,255 |

(注) 収支計画：企業会計の損益計算書に該当(収益的収支について発生主義に基づき作成)

資金計画(平成28年度)

(千円)

| 区分 | 金額 |
|--------------------|------------|
| 資金収入 | 19,381,188 |
| 業務活動による収入 | 15,858,199 |
| 診療業務による収入 | 14,329,100 |
| 運営費負担金による収入 | 1,246,698 |
| 補助金等収入 | 52,000 |
| その他の業務活動による収入 | 230,401 |
| 投資活動による収入 | 841,156 |
| 運営費負担金による収入 | 841,156 |
| その他の投資活動による収入 | 0 |
| 財務活動による収入 | 350,000 |
| 長期借入による収入 | 350,000 |
| その他の財務活動による収入 | 0 |
| 前年度からの繰越金 | 2,331,833 |
| 資金支出 | 19,381,188 |
| 業務活動による支出 | 13,783,723 |
| 給与費支出 | 7,862,917 |
| 材料費支出 | 3,540,900 |
| その他の業務活動による支出 | 2,379,906 |
| 投資活動による支出 | 1,050,371 |
| 有形固定資産の取得による支出 | 1,028,771 |
| 奨学金貸付による支出 | 21,600 |
| 財務活動による支出 | 1,462,627 |
| 長期借入金の返済による支出 | 1,437,050 |
| 移行前地方債償還債務の償還による支出 | 25,577 |
| その他の財務活動による支出 | 0 |
| 次年度への繰越金 | 3,084,467 |

(注) 資金計画：現金の収入、支出を業務、投資、財務の活動区分別に表したもの